里山コモンズクラブ通信 2016 春・夏 号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO 南山の自然を守り育てる会

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」は NPO 法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。
http://ina-mina.com/

●お問い合わせ先
発行・責任者：梁川貴司、 編集・責任者：小部正人

「今年もサンショウオ調査が終わりました」

本年8年目となる、南山の区画整理事業・自然保護区域におけるトウキョウサンショウウオ調査が終わった。

「南山の自然を守り育てる会」からは、桜井、梁川、木場と延べ3人が参加した。昨年とほぼ同様、3月11日から7月22日まで9回、調査を行うコンサルタント会社に同行した。

調査結果について、まず多くの卵を孕んだゼリー状の「卵のう」は最大数（4 月 22 日）では、2 か所ある仮設池の東池に 18 片、西池に 25 片が見られた。その日までに孵化した卵も含めると更に多く産まれたと考えられる。また幼生も最大数で東池 22 個体、西池 82 個体（6 月 10 日）を数え、7 月以後外鰓の見えなくなった個体も見られたので上陸も成功したと考えられる。

卵のう（卵のかたまり）

トウキョウサンショウウオは、東京に限らず関東を中心に広く分布する両生類。成体は雑木林など陸上で暮らすが、卵から幼生の生息に適した綺麗な水と、移動に適した水辺環境は繁殖に欠かせない。かつては多くの場所に生息していたが、田んぼや小川など綺麗な水が留まる場所や良い環境が減少するにつれ、数を減らしてきた。

近年は分布域も分断され、八王子から西の都下や、三浦半島、房総半島などの限られた場所になってきた。南山は近隣に生息地もなく希少な場所であり、謎も残る（人為的移動との説もある）。しかしいずれにしろ、この南山にサンショウウオが生息できる豊かな環境がある事に変わりはない。それを保つ活動には大きな意義がある。

亜成体（成体になる直前の幼体）

この南山の N 谷戸で、この地域ではきわめて珍しいトウキョウサンショウウオの生息が確認されて以後、そうした環境を守ろうと「南山の自然を守る会（当時）」と区画整理準備組合等の間で折衝が繰り返された。その中で、生息地の谷戸が埋め立て予定と聞いた会では、工事を回避すべく様々な対案を議論した。それでも、崩落の危険のある砂質の谷戸の補強工事計画は覆すことは出来ず、やむなくこのサンショウウオの移植計画を手伝うことになった。丘の上の自然公園予定地内に作られた仮設の池に、元の生息地から卵のうを移植して、成体となるまで観察する作業への協力。それはある意味、生息地消失を容認して行う苦渋の活動だった。

成体（主に肺と皮膚で呼吸）

今年は遂に、自生のサンショウウオの生育していた N 谷戸にも工事の鍬が入り、自生の生息環境は消滅した。そのため、この南山のトウキョウサンショウウオはこの仮設池で命脈を保つのみとなる。それだけに、この現在仮設池であるこの移植地点の環境を今後どうするかが課題となる。水源としては現在区画整理組合による給水が行われているが、将来は水道など人工的な施設も必要となるのか、ヒトの手による管理をどのように行うか。どのように自然に近い環境を保つのか。課題はいくらでもある。（桜井）

コラム

雑記帳

私の住んでいる押立は縦横に多摩川からの水路や小川がながれています。孫が遊びに来たので近くの図書館まで歩いて行くことにしました。いつもは自転車でさっと通りすぎてしまう道です。

イチョウ並木通りの歩道をいくと川辺に柑橘の木がある小川にさしかかりました。すると円状の波紋が次々と浮かんでいます。何だろうと思ってみると柑橘の木から二羽のカワセミが瑠璃色の羽根を輝かせながら小川に飛びこんではまた飛びあがっているのです。住宅が立ち並び、数メートル先には四車線の広い道路があるにもかかわらず小魚をとっているのです。しばらく眺めていましたが小魚を求めてかどんどん遠くのほうへ行ってしまいました。（木場）

[フリー写真] 水しぶきを上げて飛び立つカワセミより

自然観察会と竹の子掘り

当会の活動に賛同し、毎年、寄付をしてくれている「端数倶楽部」と共同で、四月二九日の祝日に、南山にある竹林で自然観察会と竹の子掘りを開催しました。例年の人気イベントであり、家族連れの参加者と一緒に南山の自然と竹の子掘りを楽しみました。

南山の自然レクチャーでは、現地に生息するオオタカやトウキョウサンショウウオの解説があり、間近まで迫っている宅地造成の中でこれらの生物を保護している活動が紹介されました。その後は、皆さんお待ちかねの竹の子掘りです。小さいお子さんが家庭用のスコップで掘ったり、お父さんが竹の子掘り専用のクワで根元から掘り起こしたりとそれぞれに楽しみ、竹の子を収穫していきました。

竹林は、竹の子掘りの前に当会の有志が古い竹や曲がった竹を伐採し、風通しを良くし、葉っぱに十分な日光を当てるようにしました。その甲斐もあって無事に竹の子が育って、参加者と楽しむことができました。

端数倶楽部は、その趣旨に賛同する富士ゼロックスで働く人々によって構成されています。毎月の給料と各期の賞与の『端数』（一〇〇円未満の金額）に個人の自由な意思（一口一〇〇円×n）をプラスし拠出してもらい、会員が必要と考える分野／テーマで、その資金を有効に役立てるように会員により運営されています。（小部）

竹林と後方の開発された住宅地

新会員の仲間募集

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの希少種調査など、会員として一緒に活動しませんか？

場所：稲城市城山体験学習館　学習室　毎月第1日曜日　13時から運営会
入会申込先：NPO南山の自然を守り育てる会
事務局：梁川（やながわ）携帯090-6658-7611
メールアドレス　minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない！！　でも少しは会に貢献したい！！　そんな会員の方はおられませんか？　私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか？　何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^　広報担当　小部